

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立小川高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成 副校長、経営企画室長、教務主任 計3名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生徒保健部主任、進路部主任、 計6名

(4) 協議委員の構成

大学教授、近隣中学校長、自治会代表、P T A会長、前P T A会長、保護司、同窓会代表 計7名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和5年5月19日（金）内部委員6名、協議委員5名

- ・協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
- ・学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
- ・本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和5年10月13日（金）内部委員6名、協議委員7名

- ・これまでの教育活動に関する報告
- ・協議委員からの教育活動に対する意見

第3回 令和6年3月8日（金）内部委員6名、協議委員5名

- ・これまでの教育活動に関する報告、学校評価アンケート集計結果
- ・協議委員からの教育活動に対する意見、今年度のまとめ

(2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和5年10月13日（金）内部委員1名、協議委員2名

- ・学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析と考察
- ・今年度の学校評価の実施に向けた、内容や実施時期の検討

第2回 令和5年3月8日（金）内部委員1名、協議委員1名

- ・アンケート集計結果の分析や考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 学校評価の観点

「学校の教育活動への理解」「学校の実践と対応」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- | | | | | |
|---------|-------|---------|---------|---------|
| ・12月～1月 | 全校生徒 | 対象：893人 | 回収：511人 | 回収率：57% |
| ・12月～1月 | 保護者全員 | 対象：893人 | 回収：181人 | 回収率：20% |
| ・12月～1月 | 地域・住民 | 対象：70人 | 回収：34人 | 回収率：48% |
| ・12月～1月 | 教職員 | 対象：44人 | 回収：39人 | 回収率：89% |

(3) 主な評価項目

入学満足度、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、環境美化、家庭との連絡・相談、情報発信、体罰、教員のライフワークバランス（働き方改革）、地域など。

(4) 評価結果の概要、分析・考察

①入学満足度・学校生活満足度

- ・本校への入学について、生徒と保護者は9割以上が肯定的であり、教職員が考える以上に、生徒・保護者の満足度は高い。
- ・学校生活の充実は、コロナから元の生活に戻り93%の生徒が肯定的にとらえている。

②学習指導

- ・授業方法の工夫や、学力向上や進路実現との関連については、生徒より教職員の方が高く評価している。保護者は「わからない」の回答が多く、授業公開などを通じて関心を高めていく必要がある。
- ・主体的な活動を取り入れた授業は、生徒より教職員の方が「そう思う」がやや多い。
- ・家庭学習時間は、1日1時間以上が37%（昨年度33%）だが、40%（昨年度44%）が1日30分未満であり、課題ととらえる。
- ・読書率は、月に1冊以上が42%（昨年度42）にとどまり、読書活動の推進が課題である。

③生活指導

- ・校則の順守、時間の管理、校内での挨拶については、教職員はやや厳しめに評価しているが、全体的に見ると良好である。
- ・SNSなどの情報モラルは、生徒はかなり肯定的に考えているが、教職員・保護者はさらなる指導の必要性を感じている。
- ・登下校のマナーは、生徒・保護者は肯定的に、教職員はやや厳しめに評価している。生徒はマナーについて個人的な視点で見ているが、教職員は全体を視野に入れて評価していることが原因かもしれない。自転車の乗り方や交通ルール遵守など、継続的な指導が必要である。

④進路指導

- ・進路指導については、全体的に（特に生徒が）肯定的な評価であるが、保護者には十分伝わっていない側面がある。保護者対象の進路行事に取組んでおり、今後さらに周知していく必要がある。

⑤特別活動・部活動

- ・学校行事については、生徒、保護者ともに教職員より肯定的である。
- ・部活動は、全体的に肯定的な評価であるが、特に生徒が肯定的である。

⑥健康・安全

- ・体調不良や怪我の対応、避難訓練や交通安全指導は、全体的に肯定的に評価している。保護者は「わからない」が多いのはやむを得ないが、訓練を実施した様子をホームページなどで公開するなど情報提供をしていく。
- ・生徒が抱える悩みへの対応は、全体的に肯定的な意見である。

⑦環境美化

- ・清掃活動や校内美化については、教職員がやや厳しめに、全体的には肯定的に評価されている。

⑧情報発信

- ・ホームページの閲覧は「年に数回」「見たことがない」が、生徒・保護者の過半数を超えており、さらなる充実が必要である。

⑩体罰

- ・体罰防止の取り組みは、全体的に肯定的である。

⑪教職員のライフワークバランス（働き方改革）

- ・ライフワークバランスの実現については、教職員が肯定的なのは46%にとどまっている。

- ・ライフワークバランスの実現への取り組みについて、生徒・保護者・地域・地元中学校長ともに、肯定的にとらえているが、実態がともなっていない。

⑫地域

- ・アンケートを紙での回答にした結果、回収数が非常に増えた。
- ・小川高校の生徒が地域の行事に参加していることを90%の方がご存じである。
- ・小川高校は地域との連携に協力的であることに肯定的な回答が94%である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

学校評価アンケートの分析により、課題を明確にできた。学校運営連絡協議会での協議委員の指摘、アドバイスを今後の取り組みに活かしていきたい。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

授業の工夫について、生徒と教職員の捉え方に乖離があり（教員は工夫しているつもりだが、生徒にそれが十分に伝わっていない）、そこを改善していく必要がある。

また、学校の情報発信について、どういうことを目的にし、何を伝えたいか明確にすることの重要性を指摘され、その点について改善する必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

学校評価アンケートの結果（数値・記述）を分析したことで、本校の実態を再認識し、必要な改善を図るための手がかりにすることができた。

(2) 学習指導

授業についての生徒と教職員の捉え方の乖離（教員は工夫しているつもりだが、生徒にはそれが十分に伝わっていない）について改善するために、授業力向上やICTの活用の校内研修などできるところから改善していく必要がある。

生徒の学習意欲と基礎学力を向上させ、「思考力、判断力、表現力」の充実を目指して、教材の研究やICTを用いた効果的な指導など、さらなる指導力の向上が求められていることを共通理解できた。

(3) 生活指導

遅刻や登下校のマナー、交通事故防止などの基本的な生活習慣の確立、校内環境美化を、学校全体で推進していく必要性が見いだせた。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数 4

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からない	無回答
4	2	1	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

地域のアンケート回収率を高めるために、地域については回収方法を紙にしたところ、回収率が10%から48%へ高まった。

